

かねてから好みを交わす上杉謙信の川中島出陣に呼応しての戦である。

義景自身の加賀国出陣であるため、領国内の時寺社に祈祷を命じ、軍事行動の成功を祈願してのことであつたという。

また、周到にも朝倉影鏡・影隆の率いる越前勢が侵攻して加賀の一揆と戦い、安全を確保してからの、用意周到な出陣であつた。

この有様は、一揆の拠点であつた、本折・小松や御幸塚を陥落させて郡家の庄域である、我が根上地方を席捲して、手取川に達するまで、わずかに七日間であつたのを見てもわかる。

この義景の行動は、武威を領国の越前はもとより、南加賀の人々に見せ付け、南加賀までが朝倉氏の勢力範囲であるとのことを誇示するための、行動であつたと言えよう。

一方、義景乱入の報を聞いた、二十二歳の本願寺法主顕如は、義景を法敵ときめつけ、断固反撃を命じた。

これまでの加越の闘争と異なり、加賀の一揆を指揮する本願寺は、その決意は重く、且つ重大であつた。

まず、永正末年（一五〇四〜二十一年）、以来禁止されていた坊主の「具足懸け」（武装化）を解除したこと。

更に加賀国のみならず全国の門末に総力戦を命じた事であつた。

加賀の一揆を構成する能美郡衆も死力を尽くして戦いを繰り返し、だが永禄十年（一五六七）、冬に全国制覇を目指す織田信長に抗するために和睦し、能美郡衆は一時の平和を得たのである。

白山を守護する寺院

白山五院（江沼郡 山代庄）

柏野寺 温泉寺 極楽寺 小野寺 大聖寺

中宮八院（国府村・中海村・金野村）

護国寺 昌隆寺 松谷寺 蓮花寺 善光寺

長寛寺 涌泉寺 隆明寺

三箇寺（那谷村・勅使村）

那谷寺 温谷寺 栄谷寺